

「室蘭市子ども未来指針(素案)」へのパブリックコメントの実施結果について

1 実施概要

(1) 募集期間 令和5年1月5日(木)～令和5年2月6日(月)

(2) 公表場所

① 市ホームページ及び広報紙への掲載

② 市内公共施設への設置(7箇所)

・室蘭市役所本庁舎

・むろらん広域センタービル

・市民会館

・蘭東支所(「えきがるセンター」)

・生涯学習センター「きらん」

・室蘭市サンライフ

・図書館白鳥台分室(白鳥台ショッピングセンターハック内)

(3) 提出方法

公表場所に設置している意見箱への投函及び教育委員会への持参・郵送・FAX・
電子メールによる提出のほか、市ホームページからの電子申請。

2 提出意見数 14件(5人)

3 意見等の概要と室蘭市の考え方

次ページのとおり

(1) 「分類」欄の番号の説明

① 指針の方向性として、意見の趣旨を反映させていただいたもの	0件
② 意見の趣旨が指針へ、既に盛り込まれているもの	0件
③ 今後、施策事業を検討する際に参考にさせていただくもの	12件
④ 指針に反映できなかったもの、またはその他の意見など	2件

(2) 意見等の概要と室蘭市教育委員会の考え方

提出者	No.	意見等の概要	分類	室蘭市の考え
A	1	教職員の過酷な環境をサポートするスタッフを採用し、教職員と子どもとが接する時間の確保を。	④	事務や生徒指導などを補助する事務員や支援員などと連携するとともに、校務支援システムを有効に活用し、教職員が子どもと向き合う時間を確保してまいります。
A	2	いじめ未然防止の体制、対応フロー図・組織づくりを。	③	学校は本市いじめ防止基本方針に基づき、組織的に対応しております。また、教育委員会は、学校のいじめ未然防止の取組や対応について、引き続き指導してまいります。
B	3	学校教育が抱える課題解決のためには、第3者の方が必要と考えます。	③	学校教育問題の解決は、もはや学校だけでは難しい面があります。このことから、いじめや不登校などの解決には、医療・福祉などの方を入れた各会議を現在、設置しておりますので、効果的な連携に努めてまいります。
B	4	子どもが考え、行動する場として、多くの人との関わりを大切にし、室蘭の探検やデイキャンプ、ハイキングなどを行ってはどうか。	③	本市学校教育では、子どもたちが考え、行動することを大切に考えております。小学校と中学校の9年間で、地域探検や海と山などの自然を巡る学習を、多くの人たちが関わる中で行っております。これらの多彩な体験学習は、子どもたちの成長や楽しい学校生活につながるものと考えております。

B	5	<p>不登校の子どもが、ICT端末を使い、自宅で学習する際の市のサポートをお願いしたい。</p>	④	<p>学校に登校できない児童生徒に対しては、学習に著しい遅れが生じることのないようにするとともに、学校と児童生徒とのコミュニケーションを継続することが大切なことと考えております。このことから、教育委員会は教育指導班を中心に、学校がICT端末を活用して、健康観察による子どもたちの生活リズムの維持や学習課題の配信を行えるよう、そのサポートに努めてまいります。</p>
C	6	<p>子どもたちはボランティア活動へ参加し、感想文を書いたり、意見を発言したりする時間があってもよいのではないか。ボランティア活動は、人間形成にとって大事なものと考えます。学校は、ボランティア活動の意欲向上のために、また、進学時および就職時の評価に加味する制度を願います。</p>	③	<p>ボランティア活動への参加や自分の考えを発信することは、かけがえのない経験になるものと考えております。また、よりよい社会を創ることにつながり、人がよりよく生きようとする人間形成に大切なものであるとおさえております。本市では、現在もいくつかの学校や部活動などで地域清掃などが行われております。</p> <p>さらに、令和4年度ですべての中学校区に学校運営協議会が設置され、学校と地域が一体となり、様々な取組が、今後始まってまいります。</p> <p>ボランティア活動の個人の記録につきましては、指導要録に記述し、学年間、学校間で引き継いでまいります。</p>

D	7	<p>室蘭工業大学に触れる体験は非常に大事だと思うが、一律全員にというのは必要ないように考えます。</p>	③	<p>ふるさとの魅力ある教育に取り組む中で、子どもたちはものづくりのまちを調べ、体験する学習を行い、「人の役に立つ人間になりたい」「室蘭に住んでがんばりたい」「室蘭のよさを発信したい」という気持ちを育みます。</p> <p>その学習の一環として、本市には科学技術の先端を研究している室蘭工業大学がありますので、それを見学する機会などを設けることで、夢や希望、そして理工学への興味や新たな気づきなどをもたせるようにしたいと考えております。</p>
D	8	<p>支援学級と通常学級の交流が頻繁にあるだろうか。障がい者への理解を深めるのであれば、支援学級に通う子どもたちとどのように関わればいいのかなどを、考えることが大切だと思います。</p>	③	<p>本市は、支援学級と通常学級の交流において、障がいのある子どもたちと障がいのない子どもたちが触れ合い、お互いを理解し、交流する機会を増やしていくように努めております。</p> <p>このことは、他者との関わり方を学ぶことや、共に生きる社会の第一歩であり、望ましい経験になる大切なものと考えております。</p>

D	9	<p>災害時に地域と連携できるように、子どもたちが避難所ではどのようなことが手伝えるかを考え、市は、子どもの気づきを取り上げて、何を準備すればいいのかという方向が罹災したときに生きるのではないかと思う。</p>	<p>③ 本市の小学校・中学校では、教科横断的な視点で各教科（総合的な学習の時間、社会科、理科、生活科など）の学習内容を関連づけながら、効果的に防災や安全に関する学習が進められるよう工夫しております。また、本市の取組として、地域と学校による合同での防災教育を始めております。その中で、一緒に校区内を歩いて周り、子どもたちの気づきを取り上げることや、地域の方と避難所運営ゲームに取り組むことで、引き続き防災意識の向上に努めてまいります。一方では、室蘭市防災対策課が学校で講演を行い、子どもたちはハザードマップを利用しながら話を聴くなどして地域の危険や、本市の災害について学んでいる事例もございます。</p>
D	10	<p>何がいじめに当たるのか、いじめられたら何をしたらいいのか、誰にも相談できないことなどないように24時間相談できる場所があることなどを児童生徒全員に教える必要があると思います。</p>	<p>③ 学校では、集会や学級活動、授業などを通して、児童生徒が不安や悩みを抱え、命の危機に直面したときに、「いつでもSOSが出すことができる、相談できる大人がいる」ことを指導しております。また、「24時間の相談窓口」があることを、すべての児童生徒に配布するリーフレットやカードなどを活用しながら、児童生徒、保護者に引き続き、周知してまいります。</p>

E	11	学校教育 4 つの課題を挙げていますが、数値資料の提示をお願いします。	③	資料につきましては、別冊・子ども未来指針「具体的方策」の中において、お示いたします。
E	12	「幼保小中一体となった教育」となるように、幼児教育の重要性を格上げされることを期待いたします。	③	幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う極めて重要なものであり、小学校への円滑な接続を図り、接続期の教育の充実を図っていくことが大切だと考えています。本市の幼保小の取組についてですが、令和 4 年 5 月に幼保小の代表者により、令和 7 年度までの室蘭市幼保小連携・接続推進のロードマップを作成いたしました。まずは、土台となる幼保小連携をしっかりと軌道に乗せた上で、中学校までの教育を見据えてまいります。
E	13	「主体的・対話的で深い学び」「生徒指導の機能を活かした指導」といういわば不易の部分に、I C T 等の流行にあたる部分を加えるとよいと思います。	③	より質の高い授業づくりにおいては、2 つとも大切な要素でございますので、室蘭市子ども未来指針別冊「具体的方策」において、両者を活かす方策をお示いたします。
E	14	「ふるさとの魅力」を発見し、英語で表現することに賛成です。小学校高学年の英語でも取り組みますので、それを踏まえた表現にするとよいと思います。	③	ふるさを英語で表現する活動は、小学校高学年での学習をベースに、中学校で学習する英語表現や量を増やすなど、発展的な学習に取り組むことを、室蘭市子ども未来指針別冊「具体的方策」において、お示してまいります。